

ご相談・支援について

調査の回答内容から、支援が必要と思われる方には専任の助産師・保健師等からご連絡いたします。

また、電話やメールを通して不安や悩みに関するご相談も受け付けています。下記お問い合わせ先までご連絡ください。

妊産婦専用ダイヤルへご相談ください

これからも、福島県・福島県立医科大学では、皆さまのこころと身体の健康を見守ります。



公立大学法人

福島県立医科大学

妊産婦専用ダイヤル：024-549-5180

(平日 9:00 ~ 17:00)

放射線医学県民健康管理センター

妊産婦専用メール

: nimpu@fmu.ac.jp

子育て等に関する福島県のサービス(平成30年度)

◆ふくしまの赤ちゃん電話健康相談(一般社団法人福島県助産師会)

福島県助産師会では、育児に関する無料相談や、母乳の放射性物質の検査、子育てサロン、家庭訪問、母乳育児支援(乳房トラブル等)、宿泊ケア・日帰りケアも行っています。ご利用ください。

0120-80-2051(平日 9:30 ~ 16:30)

◆屋内でものびのび遊べる場所はないの?

福島 屋内遊び場

Q 検索

◆震災後のふくしまでの子育てについて情報交換したい。

ふくしま子ども支援センター

Q 検索

◆孫育てについて情報を知りたい。

福島県 孫育て手帳

Q 検索

◆女性のからだ、心の悩みを保健師に相談したい。

女性のミカタ健康サポートコール

Q 検索

◆放射線全般の情報を知りたい。

福島 放射線について

Q 検索

福島県こども救急電話相談

(子どもの夜間の急な発熱など) 19時~翌朝8時
短縮ダイヤル(固定電話プッシュ回線・携帯電話)

8000

または(一般ダイヤル回線)

024-521-3790



福島で妊娠・出産された方へ

～ 県民健康調査「妊産婦に関する調査」結果 ～

福島県と福島県立医科大学では、妊娠届け出約1年後と出産約4年後に「妊産婦に関する調査」を行っています。皆さまの回答を福島県の子育てサービスの充実に役立てて行きます。

調査の目的

妊産婦の皆さまの
こころと身体の
健康状態を把握します

回答いただいた方
の中でケアが必要な方
をサポートします

今後の福島県内の
産科・周産期医療の
充実に活かします

調査の概要

調査対象の方

本調査

妊娠届け出
約1年後



主な調査項目
・妊産婦のこころの健康
・現在の生活、育児状況
・妊娠出産の経過
・次回妊娠に対する意識

福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター



フォローアップ調査

出産
約4年後

フォローアップ調査 調査票の送付

ご回答

お電話・メールでご相談

●平成30年度の本調査対象者

- ①平成29年8月1日から平成30年7月31日に福島県内の市町村から母子健康手帳を交付された方
- ②上記期間に福島県外で母子健康手帳を交付された方で、福島県で里帰り出産された方

●平成30年度のフォローアップ調査対象者

平成26年度調査に回答いただいた方で、平成25年8月1日から平成27年4月23日に出産された方

調査対象者数とご回答数

※平成30年6月30日現在

調査年度	対象者	ご回答数
平成23年度	1万6001人	9316人(58.2%)
平成24年度	1万4516人	7181人(49.5%)
平成25年度	1万5218人	7260人(47.7%)
平成26年度	1万5125人	7132人(47.2%)
平成27年度	1万4572人	7031人(48.3%)
平成28年度	1万4154人	7326人(51.8%)
平成29年度	1万3551人	6200人(45.8%)

出産約4年後に
フォローアップ調査を実施

対象者	ご回答数
7252人	2554人(35.2%)
5602人	2021人(36.1%)
5734人	2695人(47.0%)



※平成 30 年 6 月 30 日現在のデータです。

回答してくださった方の半分以上が、これからも妊娠・出産を希望しています。

●「次回の妊娠・出産をお考えですか？」

「はい」と答えた方

全国調査	本調査					
平成 22 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度※
51.0 %	52.9 %	52.8 %	57.1 %	53.3 %	54.6 %	52.5 %

全国調査：「平成22年第14回出生動向基本調査」結婚10年未満で子どもを予定している割合（既に子どもがいる場合）

「はい」の方で希望が多かったサービス
(平成29年度※)

- 1 位 保育の充実
- 2 位 産休・育休等の充実
- 3 位 育児、小児医療に関する情報やサービス



早産率、低出生体重児率、先天奇形率は、全国調査の値や一般的な水準と変わりませんでした。

	早産率		低出生体重児率		先天奇形・先天異常発生率	
	本調査	全国調査	本調査	全国調査	本調査	一般的な水準
平成 23 年度	4.8	5.7	8.9	9.6	2.85	3 ~ 5 (2014 産科診療ガイドラインより)
平成 24 年度	5.7	5.7	9.6	9.6	2.39	
平成 25 年度	5.4	5.8	9.9	9.6	2.35	
平成 26 年度	5.4	5.7	10.1	9.5	2.30	
平成 27 年度	5.8	5.6	9.8	9.5	2.24	
平成 28 年度	5.4	5.6	9.5	9.4	2.55	
平成 29 年度※	5.2	—	8.9	—	2.47	

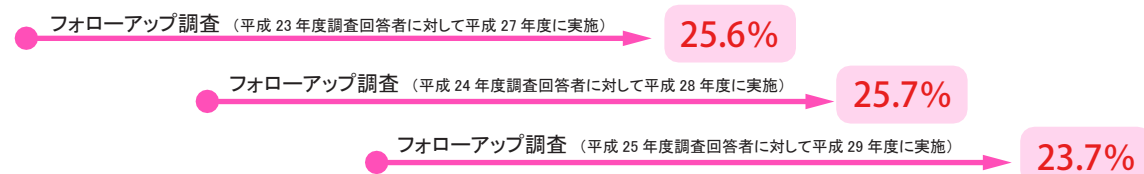
全国調査：人口動態統計における年単位の割合

早産：妊娠 22 週から 37 週未満で生まれた赤ちゃん
低出生体重児：2500g よりも小さく生まれた赤ちゃん

うつ傾向は減ってきていますが、まだ高い水準にあります。

●うつ傾向

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度※
本調査	27.1 %	25.5 %	24.5 %	23.4 %	22.0 %	21.1 %	20.8 %



妊娠中から医療施設と市町村との連絡体系ができて、病院で産後うつ健診も始まりました。

最近、母親のこころや身体の健康に関する相談が多くなっています。

●主な電話相談内容

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度～平成 29 年度※ (同じ順位でした)	平成 23 年度の フォローアップ	平成 24 年度の フォローアップ	平成 25 年度の フォローアップ
1 位	放射線の心配や影響	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	子育て関連
2 位	母親のこころや身体の健康	子育て関連	子育て関連	子育て関連	放射線の心配や影響	子育て関連	母親のこころや身体の健康
3 位	子育て関連	放射線の心配や影響	子どものこころや身体の健康	家庭生活に関すること	子育て関連	子どものこころや身体の健康	放射線の心配や影響

「子育て関連」の具体的な内容は、離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など

Q なぜ、平成24年4月2日以降に生まれた子どもは甲状腺検査をしないの？

A 甲状腺がんの発生に関わっているのは放射性ヨウ素です。放射性ヨウ素は事故後 1 ヶ月でほとんどなくなりました。それ以降は放射性ヨウ素はほとんど存在しないため、検査は不要です。詳しくは以下で検索してください。

県民健康調査 甲状腺検査

Q 検索

Q 離乳食を始める時期と注意点を教えてください。

A 離乳食を始める時期は 5 ～ 6 か月頃が目安になります。個人差がありますので、かかりつけ医や保健師に相談してみましょう。進め方はアレルギーの心配の少ないおかゆ（米）から始め、新しい食品は一さじずつ与え、うんちの色やかたさ、発疹が出ないかなど様子を見ましょう。はちみつは乳児ボツリヌス症を予防するため、満 1 歳まで使いません。
(母子健康手帳より引用)

Q 水道水が心配。ミルクを作るときはミネラルウォーターを使った方がよい？

A 平成 23 年 5 月以降、福島県内の水道水からはヨウ素、セシウムなどの放射性物質はみつかりません。お店で売っている水をお使いになっても構いませんが、赤ちゃんに使う場合、硬水（マグネシウムやカルシウムが多い水）は適しません。消化のよい軟水を使いましょう。

Q 上の子のやきもちで、毎日イライラしてしまいます。どうしたらいいの？

A やきもちは、上のお子さんの心が成長しているためですが、接し方が難しいこともあります。「あなたも同じ大切な子どもである」ことが伝わるよう、下の子がお昼寝した時は上の子とじっくり遊ぶなど、意識的に上のお子さんとの関わりの時間 がつとれるよう工夫してみましょう。また、時には「子育て支援センター」の活用や保育士さんなどまわりの力を借りることも大切です。

詳しい調査結果について

具体的な調査の結果につきましては、以下のホームページをご覧ください。

<http://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/>

福島 妊産婦調査

Q 検索

